

## 令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

### 1. 活動のテーマ

自然

園名	板橋区立高島幼稚園
所在地	板橋区高島平2-18-1

<テーマの設定理由>

幼児の姿から、自然に触れて感動したり、自然の変化を感じ取ったりしている姿が見られ、身近な環境への関心が高い様子が見られる。幼児が自分から自然に関わり、様々に発見したり感動したりすると、試したり、工夫したりする探究心が湧いてくる。園内環境や教師の援助を工夫することで、子どもたちの豊かな心を育てていきたいと考えた。

### 2. 活動スケジュール

年間を通して、幼児が自分から様々なことを見つけて遊ぶ時間を保障する中で活動を行っていく。

### 3. 探究活動の実績

<対象年齢・活動の時期・内容>

- ・3歳児
- ・令和7年6月5日
- ・幼児が身近な虫（アリ）に気持ちを向けて思いを表す

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

砂場、水、砂場のカップ、水を溜めたベビーバス

<活動の様子>

A児：アリを発見し、砂場のカップに水とアリを入れて、アリがもがいている様子を見て、「アリが泳いでいる」

T(教師)：「泳いでいるんだ。アリさん砂場の水で大丈夫かな？」

B児：「大丈夫だよ」

A児：「平気なんだよ」

C児：「アリさん、水にいれたらだめなんだよ」

T(教師)：「そうか。だめなのか」

D児：「レインコート着ているから大丈夫」

T(教師)：「大丈夫かな？お家に帰りたくないね」

B児：「大丈夫だよ」と言うが、アリが入っているカップの水ごとプランターに流す。



### 4. 振り返り

ここでは、幼児は相手が聞いているかどうかにかかわらず、自分の思ったことを言葉にしている。幼児に命の大切さを伝えるために、教師が「アリを水に入れてはいけない」と伝えることは簡単であるが、あえてそう言わずに、幼児がアリに対して、どのように見ているのかを丁寧に見ていくことで、アリについて自分なりの重いや考えがあることが分かった。

3歳児が生き物に対する自分なりの思いや考えを伝えている様子をじっくり見ていくことで、自分の経験に基づいて表現している姿が見えてきた。また、自分なりの言葉で表現することを大切にすることは、次に「○○してみたい」、「こうなるかもしれない」という幼児なりの考えや思いを引き出すことに、つながるのではないかと考察した。